

トビウオ通信 (H27 第1号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成26年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

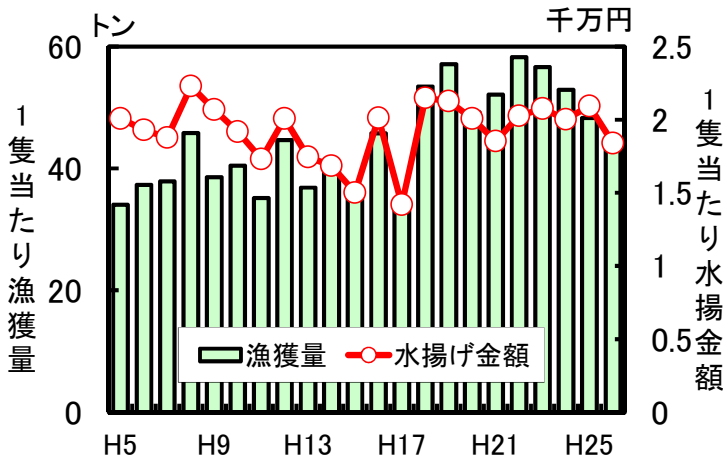


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向(9～12月)

1隻当たり漁獲量・金額とも平年を下回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)44隻*の平成26年漁期前半(平成26年9月1日～12月28日)の総漁獲量は1,927トン、総水揚げ金額は8億916万円でした。1隻当たり漁獲量は44トン、水揚げ金額は1,839万円で、平年に比べて漁獲量は14%、水揚げ金額は7%下回りました(図1)。前半は、台風の接近で、後半は寒気の影響で時化の日が多く、出漁日や網数が少なくなるなど操業に影響がでました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は45隻ですが、統計は44隻分の集計です。平年は過去10年平均。

ソウハチ 平年並み

主要魚種であるソウハチの1隻当たり漁獲量は5.5トンで、前年を上回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。ムシガレイの1隻当たり漁獲量は1.8トンで、平年の8割の水揚げに留まりました。また、メイタガレイの1隻当たり漁獲量は0.6トンで、平年の7割の水揚げに留まりました。

ケンサキイカ 過去最低

ケンサキイカは秋漁が低調に推移し、1隻当たり漁獲量は0.5トンで平年の2割の水揚げに留まり、H5年以降最低の水揚げとなりました。一方、ヤリイカの1隻当たり漁獲量は2.3トンで、平年の2倍の水揚げがあり、3年連続して増加傾向にあります。

アカムツ 平年を下回る

アカムツの1隻当たり漁獲量は1.0トンで平年の6割の水揚げに留まりました。また、キダイの1隻当たり漁獲量は3.9トン、アンコウの1隻当たり漁獲量は3.7トン、ニギスの1隻当たり漁獲量は4.7トンで、これらの主要種も平年の8割の水揚げに留まりました。

マダラ 平成10年以降最高

近年漁獲が増加しているマダラの1隻当たりの漁獲量は6.1トンで、平年の2.5倍の水揚げとなり、平成10年以降最高の水揚げとなりました。また、前漁期好調であったアナゴ類の1隻当たりの漁獲量は2.6トンで、前年を下回りましたが、平年の1.4倍の水揚げとなりました。

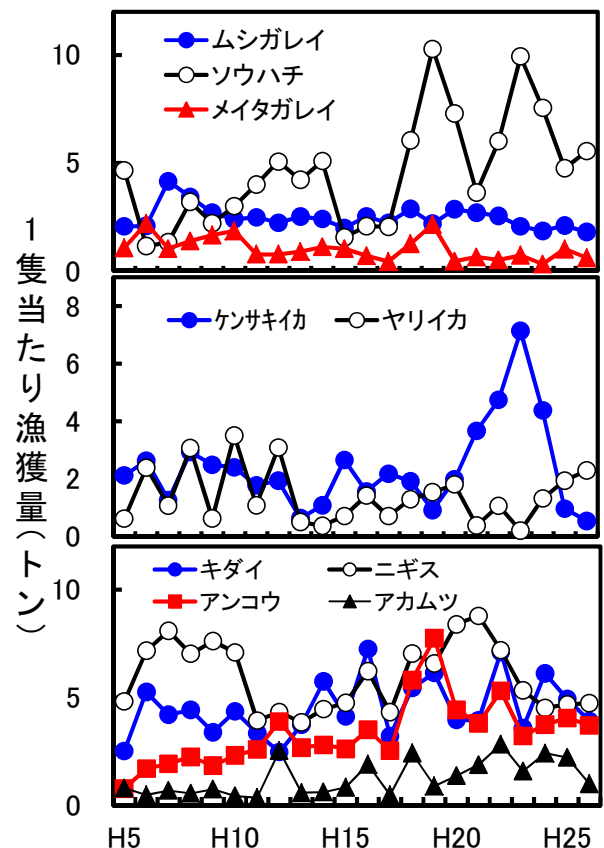


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9～12月)

沖合底びき網漁業 (2 そうびき) (県西部)

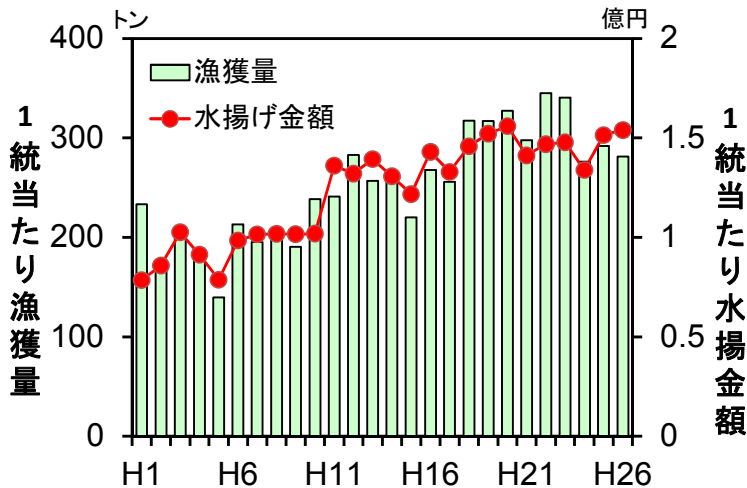


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1 統当たり漁獲量と水揚金額の動向(8~12月)

1 統当たり水揚金額 平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成26年漁期前半(平成26年8月16日~12月28日)の総漁獲量は1,406トン、総水揚金額は7億6,952万円でした。1統当たりでは、漁獲量281トン、水揚げ金額1億5,390万円で、量は7%下回りましたが、金額は6%上回りました(過去10年平均304トン、1億4,503万円)。

小底同様、前半は台風の接近で、後半は寒気の影響による時化のため避難入港など操業に多少の影響がありました。

ソウハチ 平年上回る

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は40トンで、前年並みの水揚げでしたが、平年の8割の水揚げに留まりました。ソウハチの1統当たり漁獲量は27トンで、平年の1.4倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は6トンで前年を上回りましたが、平年の6割の水揚げに留まりました。

ソウハチは休漁明けから量がまとまり、期間を通して安定した水揚げとなりました。

ケンサキイカ 平成元年以降最低

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は7トンで、前年の3割、平年の2割の水揚げに留まりました。今期は秋漁が低調に推移し、量がまとまらず、平成元年以降、最低の水揚げとなりました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は7トンで、平年の2.8倍の水揚げとなりました。11月中旬から水揚げが増加し、久しぶりにまとまった水揚げとなりました。

キダイ 好調!

キダイの1統当たり漁獲量は41トンで、平年の1.6倍となり、平成元年以降、平成25年に次ぐ水揚げとなりました。今期は、中~小型サイズを主体に期間を通して安定した水揚げがあり、好調に推移しています。アカムツの1統当たり漁獲量は13トンで、前年を下回りましたが、平年の1.3倍の水揚げとなりました。今期も前期同様に小型サイズ(メッキン銘柄)を主体に推移しました。一方、アナゴ類の1統当たり漁獲量は17トン、アンコウの1統当たり漁獲量は19トンで、ともに平年の8割の水揚げに留まりました。このほか、マトウダイの1統当たり漁獲量は13トンで、平年の1.7倍、マダラの1統当たり漁獲量は8トンで平年の3倍の水揚げがありました。

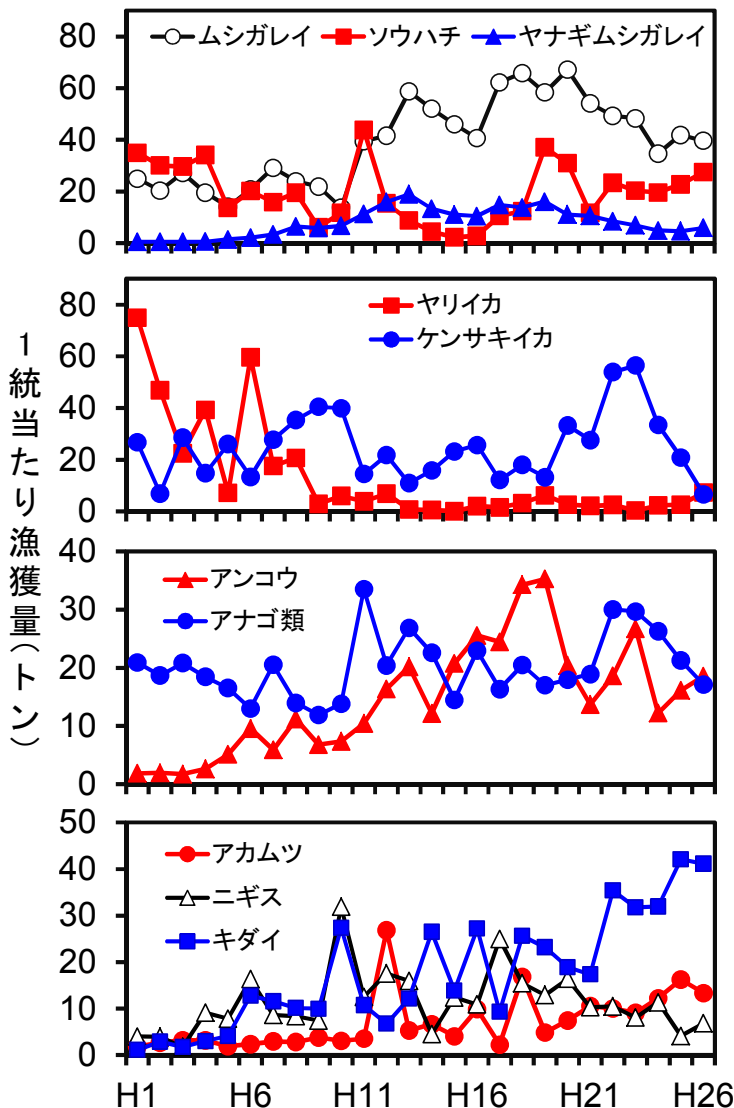


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8~12月)